

日本のモノづくりの未来への希望を乗せて滑るソリ

五輪を目指す 「大田ブランド」

下町ボブスレー
プロジェクト

モノづくりの町大田区で、ある一大プロジェクトが進められている。冬季五輪種目で「氷上のF1」とも呼ばれる競技、ボブスレーの二人乗り用ソリの開発である。現在、ボブスレー強豪国では、自国を代表する有力メーカーが中心となり開発・支援しているのに対して、日本では支援をする企業はない。そこで大田区を中心とする中小企業有志が「下町ボブスレープロジェクト」を発足し、ソリの製作に着手。ボブスレー界で初の国産競技用ソリが誕生することとなる。

このプロジェクトには、「大田ブランド」登録企業である(株)昭和製作所、(株)上島熱処理工業所、(株)マテリアルを始めとした約30社にも及ぶ企業が賛同。各社の専門知識と高い技術が結集した。驚くべきはそのスピードだ。ソリのフレーム部品の設計図を渡され、出された条件が「納期は10日後」「自費製作」という無理難題。しかし、見事に部品を期限内に完成させ、11月に開催されたJIMTOF(日本国際工作機械見本市)に試作ソリを出展。「良いものはお金と時間を掛ければ誰だってつくれる。し

かし、我々に求められているのは良いものを短時間でつくること。またお金を貰わず気持ちでつくるから、そこには魂が込められるんです」という言葉に、町工場としてのプライドとモノづくりに対する強い情熱が感じられた。

このソリには、様々な想いと期待が込められている。昨今の経済不安の中、中小企業が生き残るには、これまでの受託型ではなく、自らが考え、つくり、形にしていく自発的な体制に方向転換しなくてはならない。そして、製造者間で情報・技術を共有し、世界に誇れる技術を様々な分野に活かそうという強い決意が形となったのがこのソリなのだ。実際にソリの素材、開発技術は航空機等に採用されており、航空業界、環境エネルギー業界等の新しい分野に進出する大きな一歩となることが期待される。しかも、五輪競技用の製品ということで評判となり、若い世代の注目を集め、モノづくりの面白さを伝えるきっかけになるはずだ。

先日、長野県にて試作ソリの試験走行が行われた。ソリの改善点などはこれからだが、女子チームが自己ベストを更新、今後のソリ性能の躍進が期待される。町工場の想いが結集した手作りのソリは、2014年のソチ五輪出場という目標、さらには日本のモノづくりの未来への希望を乗せて滑り出そうとしている。



ソリの内部は精密部品がびっしり。町工場の腕の見せ所